

第 1 回会合でいただいた主なご意見について（議事概要より抜粋）

- 線状降水帯は数十キロメートル～数百キロメートルスケールの現象であり、発生の時刻や場所、持続時間などの正確な予測は難しいことから、確率的な予測情報を作成する方針は妥当である。
- 線状降水帯が発生する環境場として、水蒸気の流入を正確に把握することが重要である。気象庁観測船等に全球衛星測位システム(GNSS)を利用した観測装置を導入して機動観測を実施することは、今後の線状降水帯のメカニズムの理解やその予測精度向上にとって必要な研究的な要素も含むことから、本ワーキンググループとしても注視していく。
- 作成された情報が線状降水帯にかかる防災対策に資するためには、地方自治体や国民のニーズを的確に把握する必要がある。「防災気象情報の伝え方に関する検討会」などの議論を踏まえた技術開発を進める必要がある。
- 線状降水帯の予測精度向上に関するさまざまな課題を解決していくには、現象の発生や持続などのメカニズムの解明や、予測技術の高度化の取組を加速するため、大学等研究機関と連携して取り組んでいくことが肝要である。本ワーキンググループでは今後、連携強化に向けた具体的な議論をするべきである。